

伝統と制度の創造：19世紀後期の中国の洋務運動

郭 衛東（北京大学）

【発表要旨】

アヘン戦争の勃発は画期的な事件であった。19世紀中葉、中華伝統の古典的な文明が空前の挑戦に直面した。それまで、変化がなかったわけではないが、主に内部における調整であった。たとえほかの地域から影響を受けたとしても、おもに東洋文明からのそれであって、西洋文明の影響はおおむね間接的で些細なものであった。しかし、近代以降となると、中国文明と西洋文明が衝突するなか、伝統と制度の創造がこの時代の二大主題となった。一方では、中華伝統文明に変化が起き、他の文明体系とりわけ西洋の文明体系から多くのものを受容し吸収した。他方では、伝統文明のある要素が脈々と受け継がれ、中華文明はなおも民族的特色を失わなかった。19世紀後期の中国の洋務運動がこの社会的転換の核心であった。

まず、物質の面からいうと、アヘン戦争の惨敗によって「物質の面では敵わない」という結論が下された。そこで、近代機械工業が現れ、軍事兵器文化の勃興という特殊な現象が現れた。また、近代的都市化が進むにつれ、都市住民の消費構造と習慣が変り、社会生活とりわけ都市生活が新しい様相を呈した。近代の市政建設がスタートし、専門の消防隊や水道会社、地下水道、街灯、電話（当時「徳律風 delufeng」と英語から音訳された）が出現した。次に、文化の面からいうと、西洋の学問が衝撃をもたらし、中体西用の洋務観が現れ、博学の人と無知の人が一瞬にして逆転した。近代の文教事業が始まり、文化を伝播する新しいメディアが現れ、学問の系譜が新たに作られた。文化の面では伝統的な因習が多かっただけ直面した挑戦も最も根本的であった。最後に制度の面からいうと、立憲政治の導入の非同時性、近代的財政や司法、官僚制度の構築が挙げられる。共和制が伝統的政治制度を根本的に覆したのである。

【略歴】

郭 衛東/GUO Weidong（中国北京大学歴史学部教授）

1986年北京大學大学院中国近現代史専攻修了後、北京大學で教鞭を執る。中国中外關係史研究会理事、北京市歴史学会理事。研究分野は中外關係史、中国近現代史。主な著作に『不平等条約と近代中国』、『中土基督』、『転換—早期中英關係と南京条約を中心に—』、『中国近代特殊教育史研究』、『中外旧約章補編（清朝）』など。